

# 市長の現場主義

## 「行ってみなけりゃわからない」市民の皆さんの声が改革の力

マニフェストの実現に向けて、小島市長が動き出しました。市民の皆さんの声を市政に反映させるため、市長が現場訪問します。自らの目で現場を確認し、解決に向けて意見交換します。



▲道路改良について、中通り自治会の皆さんと意見交換

### 市長が伺います

市では、皆さんの市政に対するご意見やご要望について、①市長への手紙、②要望書や陳情書、③市長対話会などによりお聴きしています。これらのご意見やご要望について、市役所内の閉ざされた空間で論じるのではなく、市長が現場に直接伺い、皆さんと話し合いながら課題を解決していく「現場主義」の取り組みが始まりました。今月は、5月・6月に行われた、市長の現場訪問の様相を紹介いたします。**道路改良が最多** 毎年、自治会から寄せられ

る道路関係の要望は、140件を超えています。その中から緊急性が高いと思われる個所について6月1日に市長が訪問しました。

今回は、8か所の地区を訪れ、地元自治会長をはじめ、その道路を利用している市民のかたと生活道路の拡幅、通学路の整備、側溝の新設などについて意見交換をしました。

### 給食現場を訪問

5月20日に榛沢小学校、25日には藤沢小学校を訪問し、学校給食を試食しました。現在、榛沢小学校の給食は、岡部学校給食センターで作られたものが、配送され



▲藤沢小学校を訪問（右：小柳教育長）

ンター方式と自校方式はどのような違いがあるのかを確認するためのもので、市長は児童たちと一緒に給食を食べながら、いろいろな話を聞きま

### 限られた予算の中で

市の財政状況を考えると、ご要望に対する事業の実施については、緊急性や安全性を第一に考え、生命に関わることを最優先します。

このため、すべてのご要望について、すぐに解決できるとは限りません。課題の解決には、市と皆さんで直接現場

で話し合い、知恵を出し合うことが、今後ますます必要になりますので、ご協力をお願いいたします。

### 公募方式の市長対話会

市では、より皆さんがまちづくりに参加していただけるよう、「市長訪問対話会」を7月から始めました。市長が皆さんの活動場所へ伺いますので、市政全般や地域の課題、また日ごろ感じている問題などをお聞かせください。随時募集していますので、ぜひお申し込みください。対象 市内で活動しているお

おむね10人以上の団体・企業・サークルなど

場所 団体などの活動場所や公民館、集会所など

時間 おおむね1時間程度

申し込み 市長訪問対話会申込書を郵送、ファックスまたは直接秘書室へ

その他 お申し込みを受け付け後、日程や案を考慮した上で実施についてご連絡

※詳細は、市ホームページをご覧ください。お問い合わせは、またはお問い合わせください。

問い合わせ 秘書室（☎574-6631）



▲拡幅要望のある本田地内の通学路（下校時の様子）

## 平成22年度施政方針（要旨）

### 勇気と信念を持った新たな取り組み

深谷市長 小島 進

近年は、自主財源の伸びについても明るい兆しが見えず、さらに依存財源も段階的に削減されています。このような状況下では、行財政の効率化を断行し、選択と集中の考え方をもち、市政に取り組む必要性があると考えております。そのため、新たな取り組みとして、「事業仕分け」を積極的に導入してまいります。また、昨今の社会情勢の急激な変化は、本市にも多大な影響を与えております。この激動する社会情勢に的確に対応していくことが重要であり、まず「市民の安心」を第一に考え、ハードとソフトの両面から市民生活のライフラインの確保に幅広く取り組んでまいります。

さらに、私自身がトップセールスマンとなり、「地元産業の活性化」に積極的に取り組んでまいります。

次に、将来を見据えた責任のある取り組みとして推進してまいります。市民の皆様と共に進めていく「まちづくり」であります。まちの主役である市民の皆様と行政が共に手を携え、知恵と工夫と力を合わせ、よりよいまちを創っていくといった、協働の考えが重要であると考えております。そして、協働の考えを基に、「深谷らしいまちづくり」を確立してまいります。これまで築き上げてまいりました「新たな深谷市」の礎をしっかりと固め、磨くべきものをさらに磨き、見直すべきものを見直し、また新たに取り組むべきものに対しましては、勇気と信念を持って取り組みます。そしてこの深谷市の将来を見据え、市民の皆様が安心した暮らしづくりに責任を持って全力で取り組み決意で進めてまいります。